



### 年を取つたら… ドイツの介護事情 (前編)

ハノーファにある学校生物センター\*。生物が専門の職員、ヨークとは長いつきあいです。彼のお母さんは95歳。病気で入院したのをきっかけに一人暮らししができなくなりました。頭はしっかりしていてご飯も自分で食べますが、車椅子生活となり、施設に入所。2人部屋ですが、毎月5000ユーロ(80万円)かかり、うち3000ユーロ(48万円)は自己負担といいます。日本と同じくドイツも高齢化がすすみ、介護は重要課題となっています。

2022年のドイツの高齢化率は22%、日本は29%。ドイツは移民を受け入れているので低いのでしょう。2021年に要介護の人は約500万人で、人口の5.9%でした。ドイツでは成人したら子どもも親元を離れるのが一般的で、その後も親と同居することはごく稀です。歳をとっても夫婦または一人で暮らし、難しくなったら施設に入るのがふつうです。

ドイツは1995年に介護保険を導入。日本はドイツを手本に2000年に導入しましたが、ドイツと日本の介護保険にはいくつか大きな違いがあります。ドイツでは

- ・介護保険は年齢に関係なく、介護が必要になったら赤ちゃんから使える
- ・掛け金は健康保険のように、働いている人がみな払う
- ・親族や友人（介護資格のない人）が介護する場合、介護代として現金が

#### 支給される

- ・介護保険を使う際、上限額までなら自己負担はない

要介護度によって介護保険の支給額は変わり、事業者を利用する場合は、要介護度1で毎月125ユーロ(約2万円)、要介護度5は2200ユーロ(約35万円)となります。

親族や友人が介護を担う場合は一番軽い要介護度1で毎月125ユーロ(約2万円)、重度の要介護度5は947ユーロ(約15万円)の現金が支給されます。友人は隣町に住む80過ぎの父親の世話を週に数回しており「世話をしている時間は働けないから、その分の補償が出るのはいい」と話し、現金給付を喜んでいます。

日本では介護保険を利用する際、最低でも1割の自己負担が生じるため、経済的に余裕のない人は使うのをためらうこともあります。

介護保険の掛け金は子供のある人は3.05%、いない人は3.40%です。保険でカバーできる額が低く、自己負担が多いのが問題となっており、ニーダーザクセン州保健省によると「掛け金を増やして、自己負担を減らす必要がある」とのこと。老人ホームでは介護自体は保険でカバーされても、部屋代や食費は自己負担となるので多額の費用がかかります。

老人ホーム自体も不足しており、国は訪問介護やデイサービスを利用してなるべく自宅で生活することを奨励しています。最近は老人ばかりの介護付



シェアハウスも増えており、人気があります。ハノーファー郊外のシェアハウスを見に行きましたが、大きな建物に数十人が住んでいます。夫婦または一人暮らし用のアパート形式で、各住まいに小さな台所とバスルームが付いています。例えば40平米ほどの広さで家賃は光熱費込み1000ユーロ(16万円)とのこと。家具は持参するので、これまでと同じように自分の好きなものに囲まれて生活できます。共有スペースでは他の入居者と交流できます。

要介護者は介護保険を使って介護サービスを利用できますが、まだ必要のない人もいました。他にも認知症ばかりの人を集めたシェアハウスもあり、そこには24時間体制で介護の人がいるそうです。（後編に続く）

\* 1883年に創立されたドイツの環境教育施設。7haの敷地に温室、菜園、森林などがあり、市内と周辺町村の学校の子供たちが環境や自然、生物について学ぶ。

ごみかんドイツ特派員 田口 理穂

### AKIRA の 成長記録

8月からドイツで新学年が始まりました。明は12年生（高校3年）になり、あと2年で卒業です。クラスはなくなり、各自が選択した授業を受けます。大学卒業資格（アビトゥア）の成績は今後2年間の総合成績と卒業試験にかかるので、重点教科の得点が他の教科より数倍の加算となります。

明は重点教科に数学、化学、英語に加え、政治学とフランス語を選びました。「選択授業は同じ興味を持った子ばかりだから楽しい」と話し、授業中の発言も成績に影響する

ので「手を挙げるようになら、授業が面白くなかった。内容をよく聞くようになったし、しゃべるのは要点をまとめ練習になる」といいます。友達は音楽、芸術、政治学を選んだそう。音楽といつても楽器や歌ができる必要はなく、理論と歴史が中心で暗記が多くなります。

明は「演劇」と「物理から考える哲学」という教科がお気に入り。演劇では理論を学んだり、セリフを覚えたり。今度カフカの「変身」を鑑賞に行くのですが、その分2時間授業時間が減るそうです。先生の病気でたびたび自習になっているのに、余分な授業は絶対しないところが、いかにもドイツらしいです。